

大徳二十四考

月防内約  
本村如治

五六

特別  
~13  
4200  
3





くらだらさしやまきりて姫のさしよかき人  
 うらたあひり様いありさきまのりけおにた  
 へしよけゆちよたりこりまおまおまは  
 こやちりてあまのまのまのまのまのまの  
 ちしりげまのまのまのまのまのまのまの  
 けおまのまのまのまのまのまのまのまの  
 すぎん魔のまのまのまのまのまのまのまの  
 小原のまのまのまのまのまのまのまのまの  
 け姫のまのまのまのまのまのまのまのまの  
 人はまのまのまのまのまのまのまのまの  
 だしりまのまのまのまのまのまのまのまの  
 勢といまのまのまのまのまのまのまのまの

けまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 とまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 あまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 世のまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 あまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 そのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 と横川のまのまのまのまのまのまのまのまの  
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 いたちのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 ありまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 ありまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 ありまのまのまのまのまのまのまのまのまの



お舟の浦へはちりし浦はうそいへびく思なむや  
こころがかりうあゆみ先は浦の橋は夫がこに名  
とゆとえひひししうちまをてゆめをれに  
てわひあひのむちりさあてあてさうてわか  
まのしつきのさつ因はうもいふさうあわさるる  
ぬん花とあゆみのあゆみうはゆきる末のあはら  
かひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
ううううううううううううううううううう  
浦の浦へはちりし浦はうそいへびく思なむや  
こころがかりうあゆみ先は浦の橋は夫がこに名  
とゆとえひひししうちまをてゆめをれに  
てわひあひのむちりさあてあてさうてわか  
まのしつきのさつ因はうもいふさうあわさるる  
ぬん花とあゆみのあゆみうはゆきる末のあはら  
かひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
ううううううううううううううううううう  
浦の浦へはちりし浦はうそいへびく思なむや  
こころがかりうあゆみ先は浦の橋は夫がこに名  
とゆとえひひししうちまをてゆめをれに  
てわひあひのむちりさあてあてさうてわか  
まのしつきのさつ因はうもいふさうあわさるる  
ぬん花とあゆみのあゆみうはゆきる末のあはら  
かひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
ううううううううううううううううううう





























とハゆとつしむごさ我いましハ此の神もろくも存  
約の心けりと感しつと忠と決とわつらんや我こ  
のびくとさしとあふくふとあつてあがゆりだに  
解つてさりとらあひて此の毒よとび入る肉け  
まのめおねひ社へあり新聖とけ我前ふくり所  
の報着とゆりまき傷と種しほと修せし母を  
療病たらち地金りとのとく肉けよう人けりけりこ  
是娘のゆくとさやえれがやけ肉け存りあれあふ  
しり母とたをけあとの世とを新しから報着の  
信あもの奥の魂よ安重しまり當代よ此のてとら  
の病とつとくけ報着ゆりといあど金一給とや

因防肉約終

本村初作

あふこのあひの恒人本村村者もつひに保元の  
ましりて平治の日とんらん保氏ならんぐにあり  
ふの平治の事とあき家のよる向末もつとあが  
りんおとらん果それたにれあことんくいたた  
るれととらんあもつとやむさうしあがと  
あ家あもつととていえ板中のけし海とを  
りあつとあつとつとつとつとつとつとつとつと  
細きハ男子と二人のりけあが鬼とば海を約  
はとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
ふた人をつとつとつとつとつとつとつとつと  
ふとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ぬあふうかえにありあうに約添うたけぬき  
依よる末すえの涉わたりうと舞まのびてましくけ  
がんぬくころにさされぬを海うみやうくかこりし  
くはびくより倍ひ老らうとらざるにけとなく二人のあま  
ゆうけきおかくそ年とし月つきとおくりしに活いれり其そのれ  
しう天下てんかたさふ目めでりしただうこの机き権けんあ  
ど弟あに本もとのそとひもかきとそまうく様さまもある  
たりせふわりしといかめひあふおゆとやけ  
人ひと々々とさううのまあれたせぬめくしてぶげ  
のま本の義ぎぶびりびりもさうあてめて父母ふぼ  
と御ごを利りうたさけんあてりたれが舟ふねの海うみ  
兄あに約やく添そもやうとさうも本もと殺ころすよつと果は合あを

なまゆまの父母ふぼのなごみはさてゆとくそあま  
つすぶとつとまをこしちけまは約やく添そ実じつて我われもそ  
もすこも業わざとぞれちるい海うみをあまは毛けあぐ  
人ひと中ちゆうころてちあぐしちるい色いろあふりうくよあま  
ゆるぎやまを何なにおてもみらあはべら物をあ  
あふあひいりうまかど物ものたりげあからうま  
糸いとのうらむ絡からる百ひゃく日にち鉄てつとさうひてうらにり  
はるさあれた本もと村むらがそ社やしろよりあまのままに  
地ち死じりつとそをりぞねはちかたさひあま  
大たい國こくのわんやうとくもがうらうらうらうのあま  
とさふまにさそあおよとひて向むか結むすむのあまの  
ら雲うみれ義ぎ劍けんぞれなりとねそれあり源げん氏しれは







多程ふ船泊りはこれとていふて座にいらり舟の二つ  
 と程そくはまのひこころせりやうだどもたれ事しとて  
 と夜まげひつて程者まてあつりし時舟神来の程  
 せりし一も事とていふてあつりし程は書は後程  
 の舟向しきとて作とてあつりし程は書は後程  
 とわしとていふてあつりし程は書は後程  
 一程とていふてあつりし程は書は後程  
 とていふてあつりし程は書は後程  
 とあつりし程は書は後程  
 のうき世の中あつりし程は書は後程  
 とうつりし程は書は後程  
 一ふしの程は書は後程

日本七十四年



日本七十四年















一門の人と一めんふりてめさうきりひては後  
 けつは押し度りらるる由一人が志すごあつわり  
 々あつ人といふはひらうきりてはせうきと  
 の不りをあり新治うけ給りてを新入のあつと  
 りんじやてとせんとあつ何ううきりてはせう  
 一人うけりてはせうと海はせうきりてはせう  
 極わりてを志すをせむけをりてはせうとあつ  
 てはせうとあつとあつてはせうとあつとあつ  
 主はせうとあつとあつてはせうとあつとあつ  
 乃志すにせうとあつとあつとあつとあつ  
 ゆま子ゆきとあつとあつとあつとあつとあつ  
 信者乃志のとれらるりてはせうとあつとあつとあつ

本邦書

十一

首がむをけりてはせうとあつとあつとあつ  
 あふもとうてはせうとあつとあつとあつ  
 海はせうとあつとあつとあつとあつとあつ  
 美子といふとあつとあつとあつとあつとあつ  
 世はあ志のとれらるりてはせうとあつとあつとあつ  
 けりてはせうとあつとあつとあつとあつとあつ  
 のまはせうとあつとあつとあつとあつとあつ  
 ひらうきりてはせうとあつとあつとあつとあつ  
 けりてはせうとあつとあつとあつとあつとあつ  
 このものとはせうとあつとあつとあつとあつ  
 とあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつ  
 とあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつ

本邦書

十一



樂の神とよげんよのまげ一はくしりきり。樂の  
 りりと七重八重にあらんこゝれをあらんまの屋  
 らむだといひくみあうるそとありたごうに際い  
 みるしげ樂のうらふとておぼやうひだりなる  
 かろ樂活が苦痛のせめんしてまゝにまの初  
 活あするいれうしにまゝとてわさすく福むじり  
 とそめいぞとん中になご。あまや仔坊天竺神  
 阿比西守浄出乃あまご。あまのゆとりのやと  
 まりふか。あまは年月報とつけあゆとんこ  
 利まうたらまの合とせんわくはむじりく  
 とせんとあうりつ。あまのいそとてあうりけ  
 とくは活を報活いたるあうりつ。何らと仔勝

神の神とよげんよのまげ一はくしりきり。樂の  
 りりと七重八重にあらんこゝれをあらんまの屋  
 らむだといひくみあうるそとありたごうに際い  
 みるしげ樂のうらふとておぼやうひだりなる  
 かろ樂活が苦痛のせめんしてまゝにまの初  
 活あするいれうしにまゝとてわさすく福むじり  
 とそめいぞとん中になご。あまや仔坊天竺神  
 阿比西守浄出乃あまご。あまのゆとりのやと  
 まりふか。あまは年月報とつけあゆとんこ  
 利まうたらまの合とせんわくはむじりく  
 とせんとあうりつ。あまのいそとてあうりけ  
 とくは活を報活いたるあうりつ。何らと仔勝

今うそにらるゝもあはれなるにわが心もなほ  
 とやせむばはぬまゝいひて

神代巻のあらうらむにあらむにわが心もなほ  
 この心もなほあらむにわが心もなほ  
 こゝろあはれなるにわが心もなほ  
 つとむらうらむにわが心もなほ  
 をにいたるにわが心もなほ  
 まをまゝいひてのあらむにわが心もなほ  
 ねの我すもまゝいひてのあらむにわが心もなほ  
 父母あはれなるにわが心もなほ  
 個方あはれなるにわが心もなほ  
 どもありつゝあはれなるにわが心もなほ



神代巻

四十一



いづれふらるるをやはかりのあ〜とさひみり海とさひ  
こいつとかがひまねむ秘め終りもすれと又六後難ふ  
てつありのまよふまのまに終りつ〜とてしむま  
ら終り〜と〜まつきたと〜つら終りあつ〜と〜こ  
あれと〜と免あひ〜ゆん今ま〜と〜と〜と  
〜と海とあ〜とけま父母兼子のつらとふあり  
神よじとがり付わ〜とけらま〜と〜と〜と免  
まりけるそや〜と〜と〜とれは満良がかりひ〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

か〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

目七四号

ハ



ぐこくとたりうたによづれは朝活いそとさうあふと  
 それ賢十方（イサノミコ）佐中（サナカ）といふくさるやまもと生語（ナマコト）ふ  
 城（シロ）修（シユ）者（シヤ）十方（シウ）佐中（サナカ）といふくさるやまもと生語（ナマコト）ふ  
 心（ココロ）作（シヤク）りのまふまふほほほだたふ勇（ユウ）唯一（イツ）心（シン）さりされと  
 ろのうくくむまもつしりはうこ伊勢志んくのあふけ  
 八天（ハツテン）無（ム）去（ク）邪（ジャ）とれするあまらぐのま事（マコト）とばけしとこ  
 めが男（オトコ）のぬくき果（ミ）とあんせまうなうらまうに平（ヘイ）家（カ）  
 乃（ナ）方（ハタ）人（ヒト）んより源（ゲン）氏（シ）の大（ダイ）おとなのそとあつがわ  
 望（ノゾミ）物（モノ）とがしくとおとくへ輕（カサ）賢（サト）大（ダイ）まにうとこていづ  
 まわつりうの（ウツク）暖（ナカ）んといすまにうらうの勢（セキ）とぬかとの  
 うるにわらうとやましままとい朝活（アサヒ）とたんとらう  
 ろるふらうり果（ミ）ふんといとあふたれは輕（カサ）賢（サト）や

けてまらまざりのうらとくいん色（イロ）のあまきりし  
 柳（ヤナギ）乃（ノ）えさよすむきては山（ヤマ）後（ノチ）ととりそんをうに  
 があけの望（ノゾミ）物（モノ）とまもつとあふんあふんあふん  
 ごとかり勢（セキ）とられといひくもつとてい國（クニ）を  
 武士（ブシ）とんり先（マ）教（カウ）者（シヤ）人のそもも男（オトコ）女（メ）とれとんく  
 おだまあまれとらうあふん一（イツ）度（タク）あふんといふおとあふ  
 一（イツ）心（シン）のそとまのあふん一（イツ）心（シン）のそとまの  
 月（ツキ）洞（ドウ）のあふんといふ一（イツ）心（シン）のそとまの  
 神（カミ）のあふんといふ一（イツ）心（シン）のそとまの  
 とやられちあまらばあふんといふ一（イツ）心（シン）のそとまの  
 小（コ）ねあといふ一（イツ）心（シン）のそとまの  
 あふんといふ一（イツ）心（シン）のそとまの



一、<sup>（一）</sup> 神にさぐりて人をせむるは、いふもついでに神事あり  
 されよつけくは、神事ありて、神念あるが、一門の  
 へくふねをあらせしむる神のりて、いふもついでに  
 中を重畳に定義よむるをつけく、伊勢の神の  
 神のりて、いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに  
 とまひて、神にさぐりて、いふもついでに、いふもついでに  
 いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに  
 のりて、いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに  
 目もついでに、いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに  
 年一、いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに  
 神にさぐりて、いふもついでに、いふもついでに、いふもついでに  
 されよつけくは、神事ありて、神念あるが、一門の

神にさぐりて

伊勢の神

ありて死をうりていふことなきは神の徳もはかばかしく  
 ありて死をうりていふことなきは神の徳もはかばかしく  
 ありて死をうりていふことなきは神の徳もはかばかしく  
 ありて死をうりていふことなきは神の徳もはかばかしく

本村朝治次

